

令和5年度 第2回 恵那市自立支援協議会 会議録

日時:令和6年2月21日(水) 午前 10 時 30 分~11 時20分

場所:恵那市役所西庁舎3階災害対策室 AB

出席委員:伊佐地委員(委員長・会長) 横光委員(副委員長・副会長) 藤木委員 堀部委員 西尾委員 樋田委員 加藤(健)委員 坂井委員 小川委員 山邊委員 加藤(信)委員 水野委員

欠席委員:遠山委員 早川委員、三宅委員

事務局:恵那市福祉事務所長 所長 古山

恵那市社会福祉課 課長 沼田

恵那市社会福祉課 補佐兼係長 渡邊

恵那市社会福祉課 総括主査 大島

恵那市子育て支援課 担当係長 水野

恵那市社協障がい者相談支援事業所 相談員 渡邊

恵那たんぽぽ地域生活療育支援センター 相談員 青木

(株)ジャパンインターナショナル総合研究所 鈴木

(株)ジャパンインターナショナル総合研究所 高田

- 内容: 1 開会
2 議題
(1)部会について
3 その他
4 閉会

1 開会

委員長	ただいまから、第2回恵那市自立支援協議会を開会する。 それでは議題に入る。部会について事務局より説明をお願いします。
-----	---

2 議題 (1)部会について

委員長	議題2-(1)部会について、事務局をお願いします。
事務局	部会について説明
委員長	部会について説明があった。ご意見等はあるか。
委員	自立支援協議会は何のためにあるかという、地域をよくするために、皆で話あうことができるかどうかということが一番重要である。その目的に沿ったものを作ることが重要で、部会をやること自体が目的にならないように、部会はあくまで手段である。全体会で地域課題をひとつひとつ整理させて、それについての協議ができるのであればいいのだが、福祉に関することは多岐にわたるため、部会という下部組織を作り、地域課題について議論する仕組みのためにあるのが部会である。本来であれば、この部会から全体会に、例えば、「子ども部会ではこんな活動をして、こんなことが地域課題にあがりまし

	<p>た」、「今日の計画に沿ってないのではないのか」、「では次回の計画では反映する必要がある」、「市としてどんなことができますか」等、もしくは、「私たちは実際に事業を運営していたり、実際に障がいがある人と関わっていたりするの、それはうちでできる」というように、具体的に地域課題についてどうしていくことを考えていく、そのための仕組みがこの協議会のこの全体像である。そういったところをしっかりとおさえていただき、その上での部会活動をしていただくのがいいと思う。</p> <p>今、部会が多いという話を聞いたのだが、私は普段活動している土岐市では、例をあげると就労支援部会、子ども部会、相談支援部会、精神の部会、災害対策部会の5つで行っている。土岐市も協議会の見直しをしているところで、各部会がきちんと主体性を持って活動して、きちんと活動報告をあげる、地域課題をあげる、障がい者計画、障がい者福祉計画との検証を実施する。それ通りになっているか、もしくはそれではよくないのではないかなど、そのようなことを仕組みとして、市全体が連動していけるように、私たち官民協働で行える仕組みにしていくということが、この協議会運営にとっても大事なことになる。そのようなことを踏まえて、見直しをされるということに関しては、大賛成である。社会は常に動いて変わっている。同じ仕組みでできるのは限られた時間だと思う。同じ仕組みで行っていて、社会が動いたその分だけ仕組みは遅れていくということになるので、今ある形にこだわらず、適宜見直しをして、できればこの全体会からも意見を出して柔軟に作っていきけるとよいと思う。私も協力したい。</p>
事務局	<p>基幹の力を借りながら、停滞していた部会は動き出すように働きかけていきたい。委員が言われたように、地域の課題を分野ごとに吸い上げて改善していきたい。部会のところからも声をあげて、全体会に報告するという仕組みをやっていなかったところもあったので、改善していきたいと思っている。</p>
委員長	<p>質問なのだが、このメンバーの中で部会全部に入っている委員はいるのか。</p>
事務局	<p>多く入っていただいているのは横光委員と山邊委員である。</p>
委員長	<p>では、皆さまが多くの部会を兼務しているわけではないのか。</p>
事務局	<p>しごと、事業者、権利擁護は市内事業所が部会員になっているので、そういった方は重なってしまう。今回の自立支援協議会の委員のなかでは、多数重なってしまうという人はいない。市内の事業所の方は重なっている。</p>
委員長	<p>年間計画を立てて進めていくということだが、他にご意見はあるか。</p>
委員	<p>就労部会が仕事部会という形で1回も開催されていなかったということで、事業者部会と一緒になるということと、先ほど、目標が達成できていなかった根拠や理由を各部会で確認をとれる機会であるので、ぜひやっていただきたい。</p> <p>就労部会については事業所部会と一緒に、2つの部会が1つになり年に1回しかやらないので、行うことを計画的にやらないといけない。</p>
委員長	<p>では事務局から願います。</p>
事務局	<p>多治見市、土岐市、瑞浪市は就労部会でしっかり活動をされているということであったので、恵那市はその部分でできていなかった部分が多かった。ハローワークの協力をいただきながら進めていきたいと思うので、よろしく願います。</p>
委員	<p>令和6年度の見直し案というところで、子どもの会のところなのだが、私は日頃、児童の福祉事業所にいるのだが、これを見た時に「必要に応じて開催」とあった。私は必要性を感じているのだが、これはどのような形で開催するのか。</p>
事務局	<p>行政が行っている会議に療育連絡会があり、毎月開催している。事業所が運営している</p>

	<p>通所事業所ネットワーク会議も定期的開催されている。2つの会議を合同で行い、地域課題を吸い上げ検討していく会議として、年に1、2回開催したいと考えている。多治見市、土岐市、瑞浪市、中津川市に現在の部会の運営状況を確認した。土岐市と瑞浪市が一緒に行っていたものを来年度から別開催とし、通所事業所の行うネットワーク会議と行政が行う会議を合同で行う会議が年に1、2回開催されると聞いた。そういった形で恵那市も通所事業所ネットワーク会議が充実しているので、合同で開催する時が必要に応じてというところなのだが、現時点でまだ調整ができていないので、開催時期を載せることができない。年に1、2回を予定し、通所事業所ネットワーク会議代表の西尾委員にご相談させていただいて、教育部門、保健センター、発達センター、あおぼが集まる療育連絡会に特別支援学校等を含め、行いたいと考えるがどうか。</p>
委員	<p>3月にネットワーク会議があるのでその時に令和6年度の計画を立てる。そのところで恵那市と中津川市にも声をかけさせていただく。そこで、また一緒にということで位置づけとしては、この自立支援協議会の中の子ども部会みたいに位置づけがあるということでよいか。</p>
事務局	<p>ネットワーク会議は中津川市と合同だが、子ども部会は恵那市のみと考えている。恵那市の事業所に声をかけるつもりである。土岐市と瑞浪市が合同で行い、地域課題の抽出の難しさがあると聞いたので、合同で行うことは考えていない。</p>
委員	<p>そうなのか。 そうすると恵那市のほうに吸い上げるにはどうしたらいいのか。</p>
事務局	<p>中津川市も含めた課題のことか。</p>
委員	<p>私は恵那市の自立支援協議会のメンバーに入っているのだが、恵那市の体制をよくするために、取り組みを恵那市に吸い上げるようにするにはどのようにしていったらよいか。ここであげた子ども部会という形ではなく、私たちは合同でやっているのだから、ここで課題を恵那市にも中津川市にも伝えていくという形が位置づけになるということか。</p>
事務局	<p>そうである。</p>
委員	<p>これは全く同じ問題が土岐市、瑞浪市でも発生している。両市とも事業所がそんなに多くないので、事業所のネットワークが非単体でやるには小さいので、土岐市・瑞浪市で合同でやっていた。子ども部会を作らないといけないこととなり、土岐市も瑞浪市もそこに相乗りするという形で事業所のネットワークを子ども部会に位置づけたが、結局、事業所のネットワークは放課後等デイサービスや児童発達支援の質を高めたり、計算をすることを目的でつくられたところだった。地域課題をきちんと検討するとかというのはやはり難しく、地域課題を検討するのは学校関係者とか、市の職員とかが入ってもらわないと、同じ悩みがあるのではと思う。</p> <p>ということがあり、やはり子ども部会は子ども部会で作るべきだというのが、この1年間の議論であった。来年度から、土岐市にも瑞浪市にも子ども部会ができる。この事業所ネットワークの代表者がそれぞれの市の子ども部会に参加し、ネットワークで出た意見を子ども部会の皆で話し合い、代表してもっていくという形になる。</p> <p>来年度、土岐市、瑞浪市では、それぞれの市が子ども部会で目標を作る。それに対応する形で事業所ネットワークでも目標を設定して、連動していくような仕組みを作ろう、という形で現在動いている。実はその事業所ネットワークも今までは有志の集まりみたいな形であったが、きちんと要綱を作り、その要綱の中に協議会の子ども部会に参画する</p>

	<p>ことを明文化して、そういう意識を持って関わっていくということで、現在取り組んでいる。子ども部会ができたなら、そこに事業所ネットワークの代表者が参加する仕組み、そこにちゃんと事業所ネットワークの意見をまとめてもっていく仕組み、これを作ることをおすすめする。</p>
委員	<p>ありがとうございます。子ども部会があれば恵那市の中には様々な会があるので。</p>
委員	<p>土岐市も瑞浪市も様々な会があって、子ども関係の様々な会があってそれぞれ別々で動いていた。自己紹介だけ、情報共有だけで終わってしまっている会が多くあるようだ。参加している委員もこれは意味があるのかと疑問を持っていた。そうであれば一本化しようというのがこの1年間の動きであった。発達支援検討チームや療育関係者があったので、子ども部会に一本化して、逆に事業者ネットワークは独立してという仕組みを作ったので、整理が必要かもしれない。</p>
委員	<p>よろしく願います。</p>
委員長	<p>事務局からはよいか。</p>
事務局	<p>子ども部会は、事業所ネットワーク会議とは切り離し考えていく。</p>
委員長	<p>私もよく知らなかったのだが、ネットワーク会議は恵那市と中津川市がやっているのか。</p>
事務局	<p>そうである。</p>
委員長	<p>この部会を各市でやろうとすると、その議題を持ち上げる人が必要になるということか。</p>
事務局	<p>そうである。</p>
委員長	<p>必要に応じて開催というのは、1回か2回の開催になるのか。</p>
委員	<p>せめて1回でも集まりたい。</p>
委員長	<p>最低でも1回は必要になると思う。</p>
事務局	<p>事業所ネットワーク会議の代表者をメンバーに加え、年1回の開催を検討していく。</p>
委員長	<p>他にご意見はあるか。</p>
副委員長	<p>自立支援協議会にはそれぞれ部会があるという形で進めていきながら、開かれなかったという状況の中で、やはり、それぞれの部会、「こういうものが必要であろう」という形で設定しつつ、そこで何をやるのかということ、このイメージ図にもあるようにそれぞれの地域課題をあげながら全体会までいくというイメージをなかなか持てないこと、参加者もこの自立支援協議会の委員のメンバーを中心にしながら、様々な事業所ごとのネットワーク、協議会等ありつつも、そのネットワークがなかなかできていないということかもしれない。</p> <p>私も、この暮らし部会を復活する中で、何回か出席させていただきながら、暮らし部会、事業者部会という、事業者部会が開かれていない中で、暮らし部会にいろんな事業所の方が来ていて、痛切に感じたことがある。この恵那市内というエリアの中でも、事業者同士の交流、意見交換、状況をみて自分のところでは何が問題であるか、利用者にはどのような生活があって何が問題であるかということまで分からず、事業所や自己紹介や交流で終わっていつてしまっている。</p> <p>そのような意味では、自立支援協議会による部会ではなく、それぞれの地域での交流、研鑽したりする機会がある中で見つけてきた、自分たちの協議会、ネットワークの中だけでは解決が難しく、共通のテーマで検討したほうがいいテーマをここにアップするとよい。イメージ図はそうであって、実際には運営を事務局だけで運営していくという仕組みは無理がある。できれば部会を委員がそれぞれ分担できるとよい。現実問題としては大</p>

	<p>変な状況もあるので、この部会の組織とともに、今年度はこのようなテーマでそれぞれの1年間の自分の地域や事業での問題を検討していくと、漠然としたイメージだけだと、積極的な参加の仕方が難しい。「そこについて何を話すのだろう」、「どんなテーマがでるのだろうか」、という形で初めて、他の事業、自分のところには無い問題というものが見えてくる。そういう段階の積み重ねかもしれないが、せっきかくここで集約をしていくので部会のイメージとともに、それぞれの委員も自分が属していく部会についての運営、事務局への提案も含めてやっていくことができると、少し動き出せると思う。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。事務局より何かあるか。</p>
事務局	<p>くらし部会を11月から再開させて、横光委員、山邊委員には毎月参加いただいている。開催したことで顔の見える関係づくりができて、交流がなかなか無くてどういったら連携できるかという声もその場で聞いたので、部会を開催する意義は感じた。ただ、開催方法、時間、メンバーだけは工夫しながら開催していきたい。</p>
委員長	<p>それでは部会については、来年度からは5部会で進めるということでよろしいか。</p>
委員	<p>当事者の団体を代表して、いろんな部会に参加しているのだが、先回は、新しくくらし部会のなかに、今までは当事者が多かったが、施設の方が参加されて、その施設内の問題が主な問題であった。障がいを持っている家族の生の声を出せることができる唯一の会というか、就学、就労、医療の問題等がある。</p> <p>初めは、くらし部会の中に当事者は、とにかく自分の生活の中で困っている問題を出すという場所であったが、当事者もなかなか出て来られないという現状もあって衰退してきた。私としてはやはり、当事者のそういった問題を出せる場、今までは月に1回行っていただけ、聞いてもらいたいという課題はいっぱいある。そういったことをくらし部会では大事にしていきたい。その中の、子ども部会は独立していくが、特に就学の問題や子ども部会というのは、特に大人、子どもにあるので、特に子どもの問題ということでくらし部会は残してもらいたい。どのような形がよいかは今後検討をしなければならないが、やはり障がいを持つ人の生の声を出せる場所をくらし部会として、今後、続けていってほしいと思う。就労部会でいうと、それぞれ今の問題が出されたので、年に1回では少ないと思った。</p>
委員長	<p>委員の意見について事務局よりあるか。</p>
事務局	<p>11月にくらし部会を開催した際、部会ができた時からの名簿には全事業所と当事者団体が名簿にあったため、くらし部会に該当する全員に通知をした。そうしたところ、参加者が多い中で当事者と事業所の課題が違うことが判明した。</p> <p>来年度からは、くらし部会は当事者団体を主に、就労部会は事業所とする。</p>
委員長	<p>くらし部会は、ある程度当事者の方の生の声、日々の暮らしのなかの問題がいろいろあると思うので、そういうものを吸い上げていきたいということであるので、よろしく願います。</p> <p>他に意見はあるか。このような形で来年度は進めていきたいという事務局の提案であった。部会は以上となる。次の次第その他に移る。</p>

3 その他

事務局	<p>口頭での報告になるが、恵那市の障害福祉サービスと障がい児通所事業所の物価高騰支援の報告をする。恵那市では物価高騰支援ということで、年2回実施し、第1弾と</p>
-----	---

	<p>しては市内の33の事業所に対して、訪問、通所、児童、ということで、単価は定員によって異なるが、5万円 10 万円、30 万、50 万となっており、33 事業所に 465 万円交付した。第2弾として、要件、金額は同額だが、対象事業所は 34 事業所で 475 万円交付した。児童の事業所が1事業所増えているので、その分 10 万円が増えているが、対象になる事業所に対しては物価高騰対策支援ということで、事業を実施したことをご報告させていただく。</p>
委員長	<p>それでは沼田課長より願います。</p>
事務局	<p>策定委員会に続き、自立支援協議会にご出席いただきありがとうございました。部会を中心に多くの意見をいただいた。いただいた意見を整理し、令和6年度、成果が上がるような開催をしていきたいと思うので、また、その際には皆さまのご協力をどうぞよろしくお願いする。前回の 12 月 25 日の会議以降の社会福祉課を取り巻くような情報提供をする。まず1点目、能登半島地震で今も大変な思いをされている人も多くいる。ニュースでは福祉避難所が非常に厳しい状況におかれている様子が報道されている。恵那市内も福祉避難所という形で設定されている施設が4つあり、福祉センターと4つの老人ホームである。そこに介護を要するような方々を受け入れていく設定をしている。能登では施設自体が被害を受けて、スタッフも被害を受けてしまい、ほとんど機能していないとの報道がされている。そこに対して、ひとつの光として報道にあがっていたのは、長野県の県社協がチームを作っており、そのチームが設定された施設ではない所に行き、福祉的な対応を必要とする方々を受けて入れているという実績もあるようだ。今後、地震の被害の結果も受けて、福祉避難所のあり方を改めて再検討する必要がある。恵那市でも市の職員、消防署員、避難所の応援職員、給水車等を定期的に派遣しているが、そういったなかで得た知識も含めて改めて考えていきたい。</p> <p>1月29日市議会の管内視察がある。岩村に「ライフサポートくわのみ」という施設が4月にオープンする。今回の計画のなかでも、生活介護、就労支援 A・B については現在も需要が増加傾向で、この計画のなかでも伸びていく計画にしている。ライフサポートくわのみでは、生活介護 12 名の受け入れということで、特に看護師を採用し医療的なケアを必要とする方も受け入れをしていく。すぐに定員んとおりにはいかないと聞いている。議会の議員も含めて外観だけだったが視察をした。</p> <p>2月10日に手話講座の修了式があった。今年は 10 人の方が基礎編の講座を修了した。ほとんど女性なのだが今回は男性が1名入って修了した。</p> <p>2月28日に聴覚障がい者の団体からの要望を受けて、手話言語条例の検討を始めた。手話も日本語、英語と同じようにひとつの言語だという取り扱いのもとで、聴覚の障がいをもった方に対する情報アクセスをしっかりとするという要望をいただいた。当事者を交えたキックオフ会議をスタートしたいと思っている。県下では手話言語条例を作っているのは、岐阜市と羽島市だけである。岐阜県も作っている。愛知県豊田市では手話に限らず、障がいを持った方アクセスの弱い方に対する全体の権利を確保する条例を設定している。視覚障害にとっては文字が読めないというところに対する音声案内であるとか、そういったところのアクセス条例なんかを設置しているので、今後、恵那市として、そういった機運を高めて市としてそういった条例の設定が必要であるということ、しっかりと当事者の意見も含めて検討していこうという取り組みである。</p> <p>本日お手元に配布した資料のパラスポーツフェスタについてだが、これは毎年岐阜県</p>

	<p>の障がい者スポーツ協会と一緒に主催して開催しているものである。今回は金曜日の午後に恵那市のまきがね公園で開催する。昨年は瑞浪市の体育館で開催された。<r車いすスポーツ、ゴールボール等も体験できる。計画の策定のなかでも文化・スポーツというテーマを取り上げているので紹介させていただいた。</p> <p>横光副会長よりあいさつをお願いします。</p>
副委員長	<p>皆さまお疲れ様でした。これで計画ができてくる。またこれを見守りながら、恵那市の障がい者福祉が進んでいくことを皆さまとともに見守っていきたい。また、今後もお力添えをいただきたいと思う。</p> <p>課長からも話があったが、1月1日の能登半島地震以来、地震での被災は日々続いており報道もされている。そのなかでも、福祉避難については年次計画なかに常に災害の項目もあり、ずっと数年達成できていないというD評価が続いていくなかで、この数年、やっと動き出したかなと思っている。大災害のなかでは福祉避難所は機能しきれていないという状況のようである。また、自宅や車中で過ごしている障がいの方々がいるという現実もある。電気が落ちてしまったときに、命綱である機器が止まってしまう、電源が確保できないということがあるようだ。平常時には想定しつつもなかなか具体的な対策がとれていないということについては、今までの大災害を教訓にしながら、恵那市でも今一度、この福祉避難所や災害時の障がい者に対してどのような対応をするのかを考えていく必要がある。私どもも様々な事業者関係のところで具体的に研修を進めないといけないと思っている。</p> <p>今朝の新聞に載っていた「災害時でも支援も続けられるようにということでのBCPの策定が義務づけられる」ということであった。マニュアルに沿いながら作っているのだが、これは今のところ職員を含めた形での血肉になっていない。様々なことを想定しつつも、まだ足りないこともあるが、ぜひ、この事業の継続計画というのが皆で共有しながら、役割を分担しながら、研修と実地訓練を含めてやっていかないといけない。市内でもまだまだ備蓄倉庫が空だという所もある。私たちが日常の生活を支援していくとともに、大災害、自然災害についての対応も必要である。大災害の教訓が新しいなかで今後は力を入れてやって命を守っていけたらと思っている。</p>

4 閉会

委員長	以上で第2回恵那市自立支援協議会を閉会する。
-----	------------------------